

第 13 回 業務フロー・コストの分析及び情報開示に関するワーキンググループ における審議の結果報告

案件名：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の啓発事業（シンポジウム等）
の分業務フロー・コスト分析結果に対するヒアリングについて

平成 27 年 9 月開催の第 161 回官民競争入札等監理委員会において、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「機構」という。）の中期目標に、事業の費用や効果の分析といった記載があることから機構の事業の中から対象事業を検討することとなった。

その後、同年 12 月開催の第 167 回官民競争入札等監理委員会において、機構の『生涯現役社会の実現』啓発事業が、業務内容や業務量が可視化され分析結果をもとに改善措置の検討を行うことにより、より効果的・効率的な事業運営が図られることが期待できるといった分科会の意見等に基づき、分析対象事業として選定された。

この事業は、具体的には、シンポジウム及びフォーラム（表彰式を含む。）の実施である。

時間・費用は、関係職員 6 人の事務区分毎に従事時間を積み上げ、平均年間人件費から 1 時間当たりの単価を算定し人件費を計上した。また、委託費等・物件費も事務区分毎に計上した。

分析では、業務毎に従事時間を積算し、効率化できるところがないか検討。また、費用の面で削減できる部分がないか分析・検討した。

一方、課題となっている広報、企画内容の創意工夫、質向上の方策を検討した。

これらにより、業務の集約化、定型化、調達等の見直しにより総従事時間の約 5.1%（82.5+51時間）／2,629時間）が削減できることが分かり、今後、課題であった広報関連業務の向上に充て、更に残った時間は超過勤務の削減に充てることとした。

以上を、第 13 回業務フロー・コストの分析・情報開示に関するワーキンググループ（平成 29 年 7 月 3 日開催）において報告・審議した。その概要は以下のとおりである。

1. 審議の内容（○委員の意見等と（ ）機構の回答）

- 時間の可視化について、どのような工夫が行われたか。また大変さはどうだったか。（機構：何にどのぐらい時間を、が分かり有益。各職員がエクセルに自分の充てた時間を入力。時間集計がたいへんだったが、今後はエクセル機能を使って工夫できると思う。）
- 丁寧に行われている。行事の直前が多忙と思われるがどうだったか。（機構：直前に「山」があることが明確になった。今後生かしたい。）
- 内部管理の見直し、外注化、外部に支払った経費に削減の効果はどうか。また、削減時間の広報への振り向けは具体的には何に。（機構：外注化、一本化という方向に沿って、競争性を高めて行きたい。関係団体への働きかけなどに時間を振り向けて行きたい。）
- 今回の分析は、他の業務にも使えると思う。今回のノウハウを今後、生かしてほしい。

2. 今後の対応方針

今回の分析結果について当該ワーキンググループにおいて審議した結果、さらなる業務改善事項の検討は不要と判断され、当審議は終了するものとされた。

以上